

令和 8 年度 小美玉市第 3 回総合計画審議会 協議録

開催日時	令和 8 年 8 月 5 日（水）10：00～11：15
場所	小美玉市役所本庁政策会議室
出席者	馬渡剛会長、小仁所浩副会長、谷仲和雄委員、山崎晴生委員、島田清一郎委員、保田孝雄委員、木村利夫委員、藤田恵弘委員、大山明弘委員、伏見千夏委員、東ヶ崎貴之委員、鈴木祥文委員、小松正二委員、野口勝可委員、伊藤正男委員（15 名）
欠席者	石井旭委員、真家功委員、石川栄美子委員、磯部公一委員（4 名）
事務局職員	深谷一広副市長、植田市長公室長、植田政策企画課長、海保政策企画課長補佐、代々城主幹、照山主幹
内 容	1 開会 2 副市長あいさつ 3 諮問 4 協議 （1）小美玉市第 3 次総合計画策定方針（案）について （2）市民アンケート調査（案）について 5 その他 6 閉会

<協議内容>

各議題に対する質疑応答及び意見交換を以下のとおり行った。

<協議（1）小美玉市第 3 次総合計画策定方針（案）について>

・事務局より、以下の資料により小美玉市第 3 次総合計画 策定方針（案）について説明。

資料3：小美玉市第三次総合計画 策定方針（案）

資料4：策定スケジュール

【質疑及び意見】

・資料における第2次総合計画の満了時期が「令和9年3月」となっているが、「令和10年3月」の誤りではないか。

→（事務局）指摘のとおり、令和10年3月までが正しい。

・市民アンケート調査の対象者抽出はどのような手法をとるのか。

→（事務局）次の議題「市民アンケート調査（案）」の中で詳細を説明する。

・市民ワークショップにおいて、若年層（10代・20代）の参加が少なくなりそうだが、参加者の抽出はどのように行う予定か。また、若い世代も参加できるよう夜間に開催するなどの配慮が必要ではないか。

→（事務局）公募を予定しており、特定の階層を区切ることは考えていないが、参加しやすい日程・時間帯を考慮する。また、職員向けワークショップでは若手職員を中心に参加してもらう予定である。

- ・団体・事業者ヒアリングは、どのようなグループ分けて、どのくらいの規模で実施される予定か。
- （事務局）前回（5年前）は、「市民協働・シティプロモーション」「教育と文化」「保健・福祉・医療」「産業振興」「環境・防災・安全」の5カテゴリーに分け、合計32団体にヒアリングを実施した。今回もこれをベースにしつつ、対象先を選定する予定である。
- ・アンケート調査は18歳以上が対象となっており、若者の意見が取り入れられにくいことが懸念される。学生向けのワークショップを設定したり、教育委員会が実施するアンケートから若年層の意見を拾ったりする工夫が必要ではないか。小美玉市民だけでなく、市内に通う高校生などの意見もフォローしていくとよい。
- ・第3次総合計画において、「国道6号バイパス整備や公共施設の大規模更新など」を軸に据えるという表現があるが、経済規模が縮小する中で、市民が希望を持てる「まちづくりの物語やストーリー」をしっかりと示さないと将来に繋がらないのではないか。
- （事務局）公共インフラを中心に記載したのは、政策の連続性、他の20年先を見据えた計画（都市計画マスタープラン等）との整合性、中長期的な投資や資源配分の効率化を見据えてのことである。
- ・ハード面の整備だけでなく、目指す方向性やビジョン（20年のストーリー）が見えるような形に練り上げてほしい。

<協議（2）市民アンケート調査（案）について>

- ・事務局より、以下の資料により市民アンケート調査（案）について説明。

資料5-1：小美玉市第3次総合計画市民アンケート調査実施概要

資料5-2：小美玉市第3次総合計画市民アンケート調査票（案）

【質疑及び意見】

- ・10代・20代の回答率を上げるため、高校に依頼して回答してもらう取り組みや、オンライン回答の充実、インセンティブの付与などの工夫が必要である。また、ポイントを付与して若年層の回答を集める民間事業者の活用も検討すべきである。
- ・アンケートの内容が、現在進めている施策の評価やおさらいのようになっており、今後20年先の基本構想に向けたストーリーが見えてこない。
- ・設問の順番も「現在の施策評価」を聞いてから「どういう街にしたいか」を聞く順序にするなど、回答が誘導されないよう慎重に検討すべきである。また、社会調査士等の専門的な知見を取り入れるべきである。
- ・アンケート結果やワークショップの結果等をどのように統合して計画にするのか。
- （事務局）アンケートだけで20年先の将来像をすべて引き出すのは難しいため、現行計画の課題や市民の関心事項を広く把握する。将来像については、時代の潮流を踏まえて市で骨子案をまとめ、市民にフィードバックしながら作り上げていく。若者の意見などはワークショップ等で吸い上げる。
- ・20年後の人口推計はどのくらいまで減るのか。
- （事務局）国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2045年の小美玉市の人口は約3万7千人になると推計されている。

- ・若い世代が何を望んでいるのか（子育て支援の充実など）をしっかりと聞いてほしい。20年暮らすとしたら何が必要か、何を重視するかという問いがあってもよいのではないか。
- （事務局）アンケートでは問9で「未来を担う子どもたちの力を育てるために」を設けている。
- ・小美玉市の現状や財政状況（やりたいことはあってもお金がないとできないという現実）を踏まえた上で、回答してもらえるような工夫が必要である。
- ・高齢化や人口減少が重要課題となる中、健康や福祉に関する項目が少ない。福祉分野にどのくらい力を入れていくのかが見えるようにすべきである。
- （事務局）5年前の調査との変化を比較するため、あえて同じ項目立てとしている。また、回答者の負担軽減のため、設問数を前回より10問程度減らした。
- ・若年層の増加が難しい現状で、高齢者や障がいのある方も増えているため、そうした層をしっかり支えられる計画にしてほしい。
- ・数年後に比較検証できるよう、年代ではなく具体的な年齢を聞くべきである。
- ・問12（行財政・市民参加）の項目は、行革のDX推進計画の基本方針の切り口（変革を推進する職場風土の形成、部局横断的な業務改革、財政健全化と持続可能な運営）に合わせて中分類に分けて提示した方が分かりやすい。
- ・5段階評価は「真ん中の値」に集中しがちであるため、ポイントの合計だけでなく「満足」と「不満」の回答数を別軸で集計すると、明確な意見が見えてくるのではないかと。

< 5 その他 >

【質疑及び意見】

- ・小美玉市単独ではなく、広域連携（近隣市町村や市外の関係人口、応援人口、進出企業などの巻き込み）について、総合計画に盛り込めるような施策はあるか。
- （事務局）現在、水戸市を中心とする9市町村で「連携中枢都市圏」を形成し、連携ビジョンを策定している。約30の連携事業に取り組んでおり、こうした広域的な取り組みも基本計画に反映させていく。